

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2632 号

Sex differences in clinical characteristics and prognosis of patients with cardiac sarcoidosis: insights from ILLUMINATE-CS

心臓サルコイドーシス患者の臨床的特徴と予後の性差について：ILLUMINATE-CS サブ解析より

磯 隆史 (いそ たかし)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、心臓サルコイドーシス (CS) 患者の臨床的特徴と予後の性差について始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。CS 患者を登録した後ろ向き多施設観察研究である ILLUstration of the Management and prognosis of JapaNese PATiEnts with Cardiac Sarcoidosis (ILLUMINATE-CS) は、CS 患者を対象にした過去最大規模のコホート研究でありその結果は既に European Heart Journal 紙に掲載されているが、今回はそのコホートを用いて検証している。主要評価項目は、致死性心室性不整脈イベント (FVAE) であり、512 例 (平均年齢 61.6 歳) の CS 患者うち、329 例 (64.2%) が女性で、男女とも 60 歳代が発症のピークであった。これにより、CS 患者と全身性サルコイドーシス患者の年齢分布は明らかに異なることを見出し、発症機序が異なる可能性を示唆した。また、男性が有意に FVAE のリスクが高いことを明らかにした (HR 1.80, 95% CI 1.08-3.01, P 値 0.025)。従来、FVAE のリスクとして、冠動脈疾患既往や、左室駆出率が低値であることが指摘されているが、本研究ではそれらの因子に関して性差を認めなかった。また、心臓磁気共鳴画像検査の遅延造影と陽電子放射断層撮影の ¹⁸F-フルオロデオキシグルコースの取り込みも FAVE のリスクと考えられているが、それらに男女差は認めなかった。男性が FVAE のリスクが有意に高いことの原因究明については、今後さらなる研究が必要であるが、今回の研究結果は CS 患者において FVAE のリスク、そしてそれに対する植え込み型除細動器の適応について性別に応じた管理を行う必要性を示した重要な論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。